ISSN 0388−5569
VOL. 20 No. 2
（通巻59号）
1999. 8

Library News

山口大学附属図書館報

目次

新しい図書館の役目と電子情報化図書館 …… 1
— 時代の知的ソース —
書死学入門 …… 3
医学部分館における24時間開館の利用状況 …… 5
工学部分館における24時間開館の利用状況 …… 5
平成10年度図書館統計表 …… 6
本学関係教官寄贈図書 …… 7
人事異動 …… 9
平成11年度附属図書館委員会名簿 …… 10
日誌 …… 11
お知らせ …… 12

新しい図書館の役目と電子情報化図書館
— 時代の知的ソース —

附属図書館本館資料選定委員長
理学部助教授　三　浦　保　範

はじめに

最近、大学図書館の見なおしとかメデイアセンター設立とかのニュースが流れています。改革案を作成するには、それなりのベースとなる考察が必要です。ここでは、図書館とその使命の変遷について、そして最近の電子情報化に対する大学図書館の対応と将来について、私見ながら、簡単にまとめてみたいと思います。

変化する図書館の使命

図書館の歴史は、古代ギリシャ時代から記録と資料を聖なる場所（神殿など）に保存することから始まり、その材料（粘土板、パピルス、紙）も変化してきました。ローマから中世ルネッサンスには教育施設として展開され、中世イギリスでは実学（数学、測量、天文学など）分野の発展と共に、印刷技術の進展（金属活字）により大量の図書をつくり、その集積場所としての図書館に発展してきました。さらに識字率の向上と知識欲の増大によって、その書物の集積場所として考えが近代図書館のベースになっており、欧米諸国を始め，全世界の各国と広い分野に広まったのが図書館のこれまでの歴史です。

新しい図書館の展開

大量の活字媒体の書物により、文献を絶えず接触できるようになりました。さらに最近のコンピューター媒体の技術発展により、多量の情報が瞬時に、しかも分野別に可能になってきました。最近の電子情報化の流れは、図書館の歴史では、革新的な出来事になりつつあります。これまでの図書館の変革時は、戦争や政治体制の変化、そして印刷技術の発明など情報があまり多くない時代に比較的はっきりとしたイベントがベースになっています。しかし、電子情報化による図書の表示（CD-ROM、インターネット検索、電子ジャーナルなど）は、すでにほかの分野の成果（大容量計算のためのコンピューター

のハードとソフト面の発展、テレビや衛星のリモートデータの解像度の向上のための技術発展など）を応用してきたものであり、また広い分野（国立・大学・公共・私立などの設立目的別、学術研究・文献検索など専門内容別など）で図書館の変革の目的と進行度が違い、しかも情報が細分化されているため図書館全体としてはまだはっきりとした変革がみえないのが現状です。しかし、従来の活字書物が主体の図書館に、コンピューターをいれた電子情報化の導入という変革が着実に進みつつあります。

大学図書館の展開

大学図書館は、国立・学術・公共図書館と違い、大学の学生と教職員・研究者の利用に供するために、大学自体の経費で、世界中の学者をひきつけたり、また大量の寄贈図書を受けるのがこれまでの特徴です。これからはコンピューターをいれた電子情報化の導入による大学図書館の改革が必要です。これは学長・図書館長・図書館運営委員会を通して今後の検討ができる組織で対応できます。しかし、活字主体の図書館運営のサービスを支えてきた組織における職員養成は、電子情報化の導入との共存により、従来とは異なる様相を呈すると思われます。

専門図書としての大学図書館

学術研究が集中化されている大学の専門図書館では、学部単位の図書館が含まれています。また、学術雑誌のほかに抄録索引誌の整備がなされつつあり、その最もすぐれたものには、「ケミカル・アブストラクト」と「エンジニアリング・インデックス」があります。これらは、医学分野のメドラインのような電子情報サービスの充実が今後大学の電子図書館の充実に必要となってきています。

理工系図書充実のための大学図書館

図書館の歴史は、文化系の書物を集積していましたが、その文化を支える理工系の発展は目覚しいものがあります。また地味な理系分野でも文化を支える人生観が最新の宇宙・地球・生命・環境科学の進展で大きく変わり、毎日の科学的なマスコミ記事の出現で政治・文化まで左右されています。その観点から、最新の理工系図書の充実は大切です。このたび、本館資料選定委員会と附属図書館運営委員会委員等のご奮闘により各在山学部（人文・教育・経済・理・農）で学習用図書費の支出が各学部の学生積算校費の3%を目標にしたのは、大学図書館の目的からして重要な進展と思われます。

これからの電子図書館像

大量の情報が、瞬時に検索できたり、投稿できたりすると、その電子図書館は、場所や機器が固定することが難しくなります。極端には、山口でなく地球の極地から地球外宇宙まで可能であり、そのうちスペースステーションのライブラリーから山口大学へ発信するということも可能になるかもしれません。またその媒体となるコンピューターの技術革新で数年という短期間での展開と対応ができる学生や若手研究者・教育者そして電子図書館職員をどうして養成したり採用するかという問題がでてきます。

公害にやさしいカラー書物の電子情報化

電子図書館の必要性は、大量の情報量を瞬時に処理できることが強調されています。さらに公害で問題になっている発ガン性物質ダイオキシンを発生させやすい着色カラープリント印刷が、コンピューターのカラー画面の使用により減るのは、電子図書の導入のよい点です。また、一般に技術革新には限界がありませんので、コンパクトな電子図書をどこへでも持ち運びでき、そしてその電源となる強力充電バッテリー等の開発が必要になっていきます。さらに自然にやさしい太陽光エネルギーの利用も進みます。

おわりに

将来、「山口大学電子図書館製造（Ｙ連合財団販売)、携帯電子図書検索機（仮称)」というのが、学生・教職員が持ち運ぶこの学内キャンパスや街で見かけるかもしれません。そのアイデアの売上高とご寄付で、活字図書と電子図書がこの大学図書館で年々さらに増えていることも期待します。また太陽光エネルギーを十分とり入れた明るく効率的な新しい電子情報化図書館ができることも期待しています。これらが、そのうち正夢になるように努力が実ることを期待して。

書 死 学 入 門

農学部附属家畜病院助手
白 水 完 児（治）

『紙標は朽ちず』との格言がある。石や板に刻まれた文字も風化してやがては消滅するが、紙に書かれた情報は代々書写され、永く後世に伝えられると云う。文字の情報と紙の関係を如実に物語る言である。

先日、滅多に人の入らぬ最上階の書庫で瀕死の重傷患書を多数目にして、ふと思い付いた怪しげな学がある。書物の死とは何か？そこで、書誌学になぞらえ『書死学』をでっちあげ、書物の老人病や死亡原因について考えて見ることにした。

まずは紙の『酸性死』から。今の本は再生紙の中性紙で作るからこんな病は無いが、洋紙初期の書物にはこれが多い。紙面は黄疸よろしく黄色に変色して触れるとバラッと来るから手が付けられない。元来、洋紙とは木材パルプ繊維に泥を加えて薄く延ばしたモノであるから、酸で繊維が分解されてしまうと、それは脆い泥の薄板に化ける。透明な粘着フィルムで一枚ずつ剥がして行く治療があると云うが、それをやれば書物はプラスチックのビニ本となる。元来ビニールに包まれた書と云うのは内容に問題があって、健全な青少年の目に触れると困るからで、良識ある者はそのようなモノを書架の飾りとはしない。

一方、和紙の書物にはこの病が無い。和紙は強靭な植物繊維をアルカリ性の灰汁と寒の水に曝して漉くから、酸は無く長寿となる。普通の保存で百年はもち三百・五百年もつものも珍しくない。しかし、衛生状態が悪いと和紙は別の病を発して『紙死』に至ることがある。寄生虫の紙魚による厄介な伝染病である。

・・・『女ハすこし顔をしかめ、「ヲや冷てへ手だのヲ「なァに、てめへの□□□□・・・・・・』・・・ビデオのモザイクや墨塗りを消す方法はあるのだか、虫喰いは元の画像が失われてしまっているので修正のしようがない。「何で一番良い処を喰いがるんだ！」と、本のムシが紙のムシに腹を立てても、相手は「腹が減っては戦にならぬ！」とやり返す。それ程紙魚にとって和紙は旨いモノらしい。

この病の治療は寄生虫をガス室で処刑してしまうが、一旦喰われた紙は再生回復する事は無い。従って予防することが肝要で、楠の本箱に収めて一年に一回は新鮮な風を通してやり、陽の光を浴びさせてやると、ン百年の長寿を全うすることが出来る。

それと近頃目立つのが紙の『過労死』である。体質的には丈夫ではない洋紙が、垢と唾に汚染された指で、繰り返し弄り廻されると、段々にくたばって来る。医学的用語では『退行性変性』とか『老化』と呼ばれる現象である。更に格段のストレス、例えば複写機の上でさば折りの技をやられると、書物は瀕死の大怪我となる。

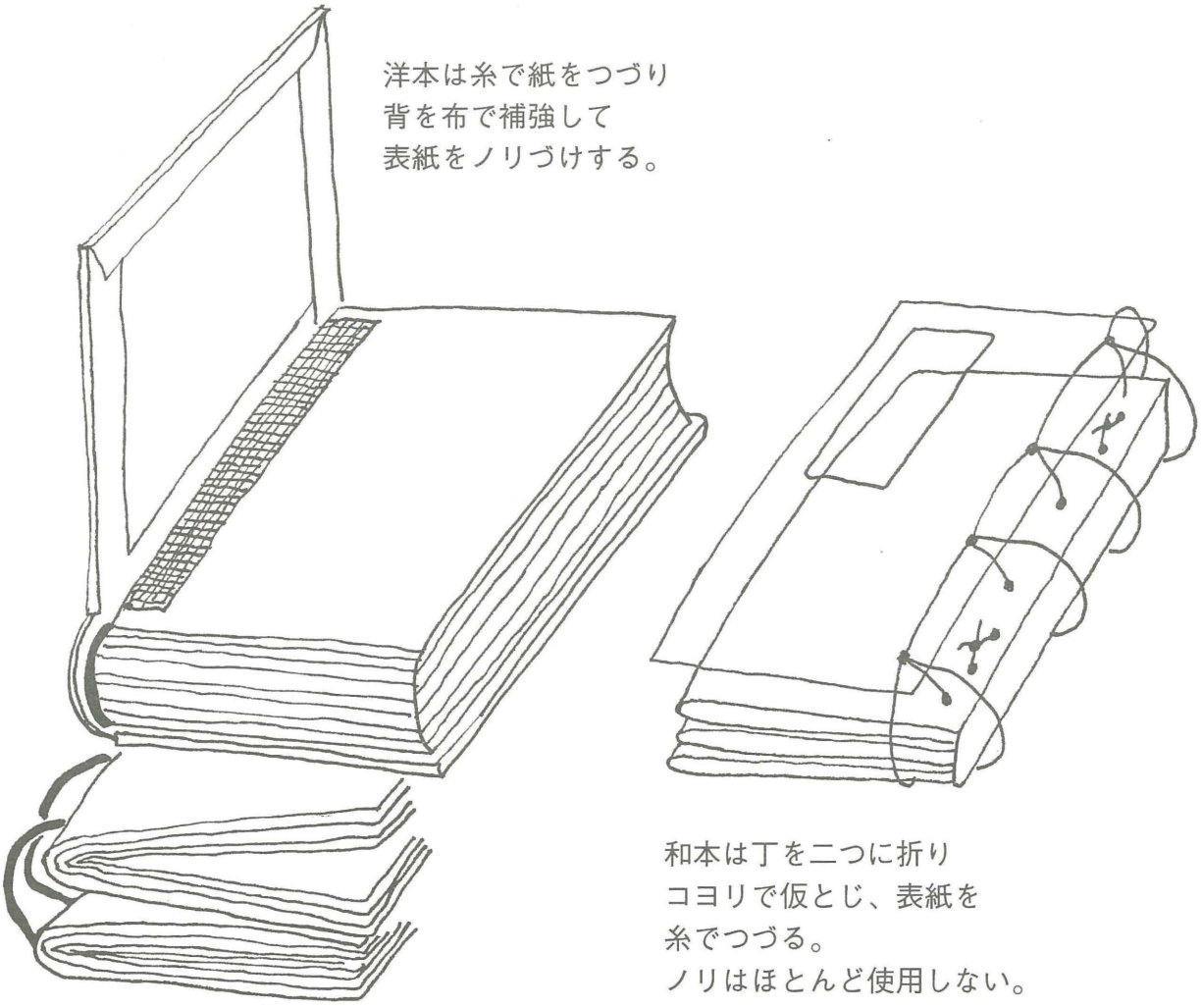
『糊死』と言うのもある。糊付けで作られた簡易製本の書物ではしょっちゅうこれが発生する。昔の糊は水と澱粉かアルギン酸、あるいは蒟蒻や膠と言った生物材料で作られているからどうしても弱い。けれども『糊死』は書物にとって致命傷ではない。外科的な処置によって的確な治療が施せば、紙の疲労死までは寿命が延ばせるものである。外科的な処置に際して、兎角簡易なスティック糊を使うが、簡便なだけに寿命も短いようである。どうしても『糊死』を嫌う場合は簡易製本の書物を装丁製本してしまえば良い。こうすると最も力が加わる所には紙と同じ位の寿命を持つ糸を使うので書物の寿命は格段に延びる。

余談になるが、ホッチキスで綴じたものは簡易製本とは云わない。これはまだ製本前の姿であるから『仮綴じ』と称する。『仮綴じ』のステップルは極短命で、高温多湿下ではあっと言う間に錆を生じて、大切な紙までも傷めてしまう。本来生物材料のみで作られる書物に無機の金属材料を使うことは禁物で、どうしても『仮綴じ』が必要なら昔通りの紙縒りが良い。

『糸死』『皮死』と云うのもある。紙を綴る糸が朽ちて切れるのが『糸死』。いとしい書物をこの姿にしては愛書家の名が廃る。和本の場合は、糸は表紙と本体を綴るだけであるから、切れた古い糸を取り除いて新しい糸と交換すれば良い。本体は紙の紙縒りで仮綴じしてあるから、素人でも出来る簡単な修理である。洋本の『糸死』は全面改装となることが多いから専門家でないと無理のようである。

『皮死』は装丁用皮革の油が抜けて朽ちてしまったもの。三方金・天金に背皮装丁の豪華本も珍しくなったが、本学図書館の書庫にはかなりの数が並んでいる。これら豪華本の殆どは『皮死』状態である。この『皮死』の原理はお肌の老化と同じで、毎日のお手入れがまずいと直ぐに進行してしまう。定期的にミンクオイル、馬油、深海鮫の油等動物性の油を含ませてやると良いのだが、上質の油は中々手に入らない。そこで取って置きの油を紹介しよう。それは『鼻の油』である。栄養と睡眠をたっぷりとった若者の『鼻の油』。これを毎日指先につけて擦り込んでやると、皮は最高の健康状態を保つ事が出来る。オジンにオバンはもう油切れで駄目。皮背の豪華本と皮張りの辞書が待っているのは、滲み出る知識欲の油にテカるピカピカの若者である。

最後は『布死』。先に複写機の上でさば折りと述べたが、書物にこのような暴力的行為が加えられると、背の薄い布が無残にも破れてしまう。こども用の絵本はまだしも、分厚い洋書の二頁一緒複写は、書物の力学的構造から決しておこなってはならない行為である。



附属図書館医学部分館における24時間開館（無人開館中）利用状況

本年４月から２４時間開館（無人開館）を開始しました。４月から２４時間開館の利用のためにガイダンスを受けていただきました。そのため、無人開館中の利用者統計は、５月から出してみました。

医学部分館では、教職員はもとより医学部・医療短期大学部学生まで利用者としました。一日平均で、平日は６０人、土曜日・日曜日などは１００人、平均で８０人あまりの利用者がいます。５月と６月を比べると６月の方が増えています。利用者では、医学部学生８、医短学生１、教職員１の割合です。

まだ利用されてない方は、ガイダンスを行っていますのでカウンターまでお越し下さい。利用者は、ルールを守って利用して下さい。

		開館日数	医学部学生	医学部教職員	病院教職員	医短学生	医短教職員	他学部教職員	計（一日平均）
5月	平日	18	1,014	4	57	92	0	3	1,170 (65)
	土曜日	5	346	1	14	41	0	0	402 (80)
	日曜日	5	359	1	25	31	0	1	417 (83)
	祝祭日	3	422	7	21	19	0	2	471 (157)
	計	31	2,141	13	117	183	0	6	2,460 (79)
6月	平日	22	1,182	13	112	161	1	14	1,483 (67)
	土曜日	4	297	6	20	46	0	0	369 (92)
	日曜日	4	424	9	33	76	0	0	542 (136)
	計	30	1,903	28	165	283	1	14	2,394 (80)

附属図書館工学部分館における24時間開館（無人開館中）利用状況

工学部分館では、４月から教職員と大学院生を対象に２４時間開館を開始しました。
７月３１日までの利用登録者数は１３３名で、延べ１７５人の利用がありました。目立ったトラブルも無く概ね順調に利用されています。

平成10年度　図書館統計表

Ⅰ．蔵書数（平成11年３月31日現在）

区分	図書（冊数）			雑誌（種類数）			備考
	和	洋	計	和	洋	計	
本館	867,025	335,466	1,202,491	15,149	5,479	20,628	
医学部分館	89,841	84,492	174,333	1,997	2,076	4,073	
工学部分館	89,206	58,572	147,778	1,667	1,557	3,224	
合計	1,046,072	478,530	1,524,602	18,813	9,112	27,925	

Ⅱ．年間受入数

区分	図書（冊数）							雑誌（種類数）						
	和			洋			合計	和			洋			合計
	購入	その他	計	購入	その他	計		購入	その他	計	購入	その他	計	
人文学部	2,502	118	2,620	923	67	990	3,610	311	8	319	206	7	213	532
教育学部	2,716	71	2,787	299	47	346	3,133	462	11	473	293	6	299	772
経済学部	2,882	580	3,462	207	2,079	2,286	5,748	1,262	328	1,590	622	64	686	2,276
理学部	222	69	291	529	454	983	1,247	30	1	31	173	8	181	212
農学部	290	67	357	183	69	252	609	165	2	167	115	4	119	286
共通教育	5	0	5	0	0	0	5	2	0	2	0	0	0	2
学生相談所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	5
保健センター	8	0	8	0	0	0	8	6	0	6	0	0	0	6
埋蔵文化財	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学部(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工学部(本)	29	0	29	73	0	73	102	2	0	2	10	0	10	12
本館	2,712	2,057	4,769	646	236	882	5,651	239	2,205	2,444	116	83	199	2,643
小計	11,366	2,962	14,328	2,860	2,952	5,812	20,140	2,479	2,555	5,034	1,540	172	1,712	6,746
医学部分館	1,122	613	1,735	238	1,498	1,736	3,471	245	672	917	443	151	594	1,511
工学部分館	1,086	361	1,447	231	1,395	1,626	3,073	272	348	620	467	49	516	1,136
合計	13,574	3,936	17,510	3,329	5,845	9,174	26,684	2,996	3,575	6,571	2,450	372	2,822	9,393

Ⅲ．利用統計

区分	開館日数（日）		入館者数（人）			館外帯出者数（人）	館外帯出冊数（冊）		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	計	時間内	時間外	計
本館	231	229	264,869	70,457	335,326	33,636	47,391	20,514	67,905
	一日平均		1,147	308	—	—	—	—	—
医学部分館	240	199	32,362	28,326	60,688	10,238	8,392	4,967	13,359
	一日平均		135	142	—	—	—	—	—
工学部分館	242	201	150,045	52,377	202,422	15,636	15,115	8,842	23,957
	一日平均		620	261	—	—	—	—	—

Ⅳ．文献複写

区分		学内者			学外者	他大学等			合計
		私費	校費	小計	私費	私費	校費	小計	
電子式複写	本館	1	11,842	11,843	1	3,614	3,436	7,050	18,894
	医学部分館	49	8,283	8,332	31	6,539	5,196	11,735	20,098
	工学部分館	120	24,918	25,038	79	487	1,945	2,432	27,549
	合計	170	45,043	45,213	111	10,640	10,577	21,217	66,541
印画引伸	本館	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅴ．相互協力

	図書館の貸借（冊数）								文献複写（件数）							
	借受				貸出				依頼				受付			
	国内	国外	謝絶	計	国内	国外	謝絶	計	国内	国外	謝絶	計	国内	国外	謝絶	計
本館	572	1	46	619	733	0	328	1,061	6,052	33	256	6,341	7,050	0	1,721	8,771
医学部分館	17	0	0	17	48	0	3	51	5,139	6	154	5,299	11,735	0	2,207	13,942
工学部分館	24	0	7	31	57	0	16	73	2,464	18	175	2,657	2,432	0	239	2,671
合計	613	1	53	667	838	0	347	1,185	13,655	57	585	14,297	21,217	0	4,167	25,384

Ⅵ. 参考調書

	所在調査	事項調査	利用調査	その他	計
本　　館	744	672	1,392	2,043	4,851
医学部分館	191	132	674	56	1,053
工学部分館	362	211	80	22	675
合　　計	1,297	1,426	2,146	2,121	6,579

本学関係教官寄贈図書（受入順）

［本　館］（平成11年３月～平成11年８月）

加藤　宏文（教育学部教授）
・生きる力に培う「主題」単元学習　加藤宏文著　浜本純逸編　明治図書出版　1999
（国語科新単元学習による授業改革　９）

纐纈　厚（人文学部教授）
・日本陸軍の総力戦政策　纐纈厚著　大学教育出版　1999
・侵略戦争：歴史事実と歴史認識　纐纈厚著　筑摩書房　1999　（ちくま新書　207）

三室　守（理学部教授）
・光がもたらす生命と地球の共進化：エネルギーと食料と地球環境にたいするグローバルな視点
垣谷俊昭、三室守編　中部経済新聞社　1999

上野　修（人文学部教授）
・精神の眼は論証そのもの：デカルト、ホッブズ、スピノザ　上野修著　学樹書院　1999

鹿江　雅光（名誉教授）
・獣医伝染病学　第５版　清水悠紀臣［ほか］編　近代出版　1999

瀬古　秀文（農学部教授）
・食料・農業のための世界植物遺伝資源白書：ドイツ・ライプチヒにおける国際植物遺伝資源技術会議のために作成　国際連合食糧農業機関編　瀬古秀文訳　国際食糧農業協会　1999　（資料　378）

・Plant genetic resources :characterization and evaluation Research Council Secretariat of MAFF and National Institute of Agrobiological Resources 1998

友定　啓子（教育学部教授）
・子どもの心を支える：保育力とは何か　村田陽子、友定啓子著　頸草書房　1999

谷光　太郎（経済学部教授）
・半導体産業の系譜：巨大産業を築いた開拓者（パイオニア）たち　谷光太郎著　日刊工業新聞社　1999

桒原　昭徳（教育学部教授）
・マー君の散歩道：３歳児の四季　桒原昭徳著　ミネルヴァ書房　1995
・幼児との接し方：韓国で出合った子どもたち　桒原昭徳著　ぎょうせい 1999
・子どもと共にある散歩：３歳児から見た春・夏・秋・冬　桒原昭徳著、金慶鎬　ハ　ジョンヨン訳　1999　（マー君の散歩道の韓国語訳）

吉村　光威（経済学部教授）
・現代ディスクロージャー論　ディスクロージャー研究学会編　中央経済社　1999

五島　淑子（教育学部助教授）
・卑弥呼の食卓　大阪府立弥生文化博物館編　吉川弘文館　1999

中尾　光延（工学部教授）
・カフカと二十世紀ドイツ文学　中尾光延、河中正彦［ほか］執筆　有村隆広編　同学社　1999
・＜忘却＞の文学史：ひとは何を忘れ、何を記憶してきたか　ハラルト・ヴァインリヒ著　中尾光延訳　白水社　1999

［医学部分館］

宮本　康嗣（医学部助教授）
・正しい知識と確かな理解　リン・Ｓ・ベイカー著　宮本康嗣訳　ＨＢＪ出版局　1992　（エイズのことがよくわかる本：つぎの世代のために　上）
・エイズとともに生きる　リン・Ｓ・ベイカー著　宮本康嗣訳　ＨＢＪ出版局　1992　（エイズのことがよくわかる本：つぎの世代のために　下）
・酒・ドラッグそしてエイズ：知ってほしい！いま、あなたのために　福岡大学学生部編　三共出版　1998

［工学部分館］

石田　毅（工学部助教授）
・岩盤破壊音の科学　石田毅著　近未来社　1999

人 事 異 動

[任期満了退職]

(11. 3.30) 原口 智美 情報サービス課情報サービス係
(11. 3.31) 渡邉 美和 情報管理課目録情報係

[任 期 満 了]

(11. 3.31) 川口 政宏 附属図書館長

[併 任]

(11. 4. 1) 小嶋 直哉 附属図書館長（総合情報処理センター長）

[採 用]

(11. 4. 1) 首藤 真由美 情報サービス課情報サービス係
(11. 4. 1) 野原内 芳枝 情報管理課目録情報係

[昇 任]

(11. 4. 1) 岡田 隆 情報管理課目録情報係長（工学部分館情報サービス係）
(11. 4. 1) 金重 幾久美 情報管理課総務主任（人文学部・理学部庶務係）

[配 置 換]

(11. 4. 1) 中野 美智子 情報管理課長（徳島大学附属図書館情報サービス課長）
(11. 4. 1) 堀内 眞也 筑波大学図書館部情報サービス課長（情報管理課長）
(11. 4. 1) 岩戸 友行 情報サービス課資料サービス係長（医学部分館情報サービス係長）
(11. 4. 1) 江見 伸子 情報サービス課情報サービス係長（情報管理課目録情報係長）
(11. 4. 1) 藤本 房枝 医学部分館情報サービス係長（情報サービス課資料サービス係長）
(11. 4. 1) 松本 美智子 工学部分館情報サービス係長（情報サービス課情報サービス係長）
(11. 4. 1) 多賀谷 玲子 農学部学務主任（情報管理課総務主任）
(11. 4. 1) 石田 恭子 人事課任用係・文部省高等教育局企画課
大学審議会第2係併任（情報管理課総務係）
(11. 4. 1) 赤野 徹 工学部分館情報サービス係（情報サービス課資料サービス係）

平成11年度　附属図書館各種委員会名簿

◎印は委員長

◇運営委員会

◎小　嶋　直　哉（館長）
中　村　和　行（医学部分館長）
田　中　正　吾（工学部分館長）
加　藤　和　哉（人文学部）
太　田　　聡（人文学部）
吉　村　　誠（教育学部）
福　田　　修（教育学部）
田　淵　太　一（経済学部）
石　田　成　則（経済学部）
井　上　愼　一（理学部）
三　浦　保　範（理学部）
佐々木　功　典（医学部）
浜　本　義　彦（工学部）
梶　田　泰　司（農学部）
岩　田　祐　之（農学部）
森　松　光　紀（附属病院）
塚　原　正　人（医療短大）

◇本館図書委員会

◎小　嶋　直　哉（館長）
加　藤　和　哉（人文学部）
太　田　　聡（人文学部）
吉　村　　誠（教育学部）
福　田　　修（教育学部）
田　淵　太　一（経済学部）
石　田　成　則（経済学部）
井　上　愼　一（理学部）
三　浦　保　範（理学部）
梶　田　泰　司（農学部）
岩　田　祐　之（農学部）
矢　野　正　博（事務部長）

◇本館資料選定委員会

太　田　　聡（人文学部）
福　田　　修（教育学部）
田　淵　太　一（経済学部）
◎三　浦　保　範（理学部）
岩　田　祐　之（農学部）
上　田　照　賀（図書館専門員）
高　崎　鈴　枝（資料受入係）
岡　田　　隆（目録情報係長）
江　見　伸　子（情報サービス係長）
宇都宮　麻　衣（資料サービス係）
鳥　谷　和　世（電子情報係）

◇医学部分館図書委員会

◎中　村　和　行（分館長）
佐々木　功　典（基礎）
河　野　裕　夫（基礎）
森　松　光　紀（臨床）
小　田　裕　胤（臨床）
塚　原　正　人（医療短大）

◇工学部分館図書・研究報告委員会

◎田　中　正　吾（分館長）
浜　本　義　彦（運営委員）
藤　井　文　武（機械）
大佐々　邦　久（応用化学）
松　田　　博（社会建設）
中　岡　睦　雄（電気電子）
大　林　正　直（知能情報）
中　邑　義　則（機能材料）
中　尾　光　延（感性デザイン）
岡　田　真　理（共通講座）

◇図書館情報システム化推進委員会

◎矢　野　正　博（事務部長）
中　野　美智子（情報管理課長）
小早川　良　規（情報サービス課長）
上　田　照　賀（図書館専門員）
藤　井　良　雄（総務係長）
三　浦　博　士（資料受入係長）
岡　田　　隆（目録情報係長）
岩　戸　友　行（資料サービス係長）
渡　部　哲　夫（電子情報係長）
江　見　伸　子（情報サービス係長）
吉　光　紀　行（医：情報管理係長）
藤　本　房　江（医：情報サービス係長）
赤　間　篤　彦（工：情報管理係長）
松　本　美智子（工：情報サービス係長）

◇システム業務部会

◎小早川　良　規（情報サービス課長）
上　田　照　賀（図書館専門員）
渡　部　哲　夫（電子情報係長）
三　浦　博　士（資料受入係長）
吉　光　紀　行（医：情報管理係長）
岡　田　　隆（目録情報係長）
赤　野　　徹（工：情報サービス係）
江　見　伸　子（情報サービス係長）
鳥　谷　和　世（電子情報係）

◇附属図書館広報委員会

◎小早川　良　規（情報サービス課長）
上　田　照　賀（図書館専門員）
金　重　幾久美（総務係）
河　本　香代子（目録情報係）
中　川　秀　夫（資料受入係）
大　沢　恵　子（資料サービス係）
渡　部　哲　夫（電子情報係長）
堂　迫　妙　子（情報サービス係）
西　垣　昇　治（医：情報管理係）
松　本　美智子（工：情報サービス係長）

日　誌

［本　館］

4.20	平成11年度第１回本館資料選定委員会
4.27～28	第47回中国四国地区大学図書館協議会総会および 第26回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（山口市）
5.10	第81回山口大学附属図書館運営委員会 第52回山口大学附属図書館本館図書委員会
5.14	システム業務部会
5.18	平成11年度第２回本館資料選定委員会
5.25	平成11年度国立大学附属図書館事務部課長会議（東京） 矢野事務部長、中野情報管理課長
6.8	平成11年度第３回本館資料選定委員会
6.10	第82回山口大学附属図書館運営委員会
6.23～24	第46回国立大学図書館協議会総会（仙台市） 小嶋館長、矢野事務部長、小早川情報サービス課長
7.5	平成11年度第１回附属図書館広報委員会
7.6	新ＣＡＴ／ＩＬＬシステム説明会（福岡市） 岡田目録情報係長
7.9	システム業務部会・更新プロジェクト
7.12	第83回山口大学附属図書館運営委員会 第53回山口大学附属図書館本館図書委員会
7.13	平成11年度第４回本館資料選定委員会
7.16	山口県大学図書館協議会総会 小嶋館長、小早川情報サービス課長、上田専門員
7.27	新ＣＡＴ／ＩＬＬシステム説明会（広島市） 守永情報サービス係員
7.30	中国・四国地区国立大学図書館協議会地域共同サーバ検討ＷＧ（東広島市） 渡部電子情報係長
8.4～6	目録システム地域講習会（山口大学附属図書館）

［医学部分館］

4.5	24時間開館開始
4.9	医学部２年生オリエンテーション
4.9	医療技術短期大学部新入生オリエンテーション
4.14	医学部２年生図書館ガイダンス
4.22	医療技術短期大学部衛生学科３年生文献検索講習会
4.22	大学院共通基礎コース
4.26	医療技術短期大学部看護学科３年生文献検索講習会
5.20～21	日本医学図書館協会総会（福岡）吉光情報管理係長
6.28	第１回医学部分館図書委員会
7.22	高校生施設見学

［工学部分館］

4．7	編入生オリエンテーション
4．8	２年生進級生オリエンテーション
4．9	夜間主コース新入生オリエンテーション
4．30	第１回図書・研究報告委員会
6．8～11	文献検索講習会
6．21～25	文献検索講習会
6．24	第２回図書・研究報告委員会

お　知　ら　せ

図書館業務システムの更新について

図書館業務電算システムが12月末に更新され、来年１月より稼働する予定です。それにより、新たなサービスが展開されます。

その概要を簡単にお知らせします。

先ず利用者用パソコンが大幅に増え、本館に30台、医学部分館に15台、工学部分館に20台が、各々の図書館の使いやすい場所に設置されます。これにより、インターネット利用、データベース検索、資料の所蔵検索等自由に使用できる環境が整います。

次に、ネットワークを使った新たなサービスとして、各研究室から図書の注文や学外への文献複写申し込みを研究室に居ながらにして行うことができます。

また、これから機器更新に向かって各種工事が予定されています。利用者の皆さんに多少ご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご協力よろしくお願い申しあげます。なお、新システムのサービス、業務内容の詳しいことは、次号でお知らせいたします。

編集・発行　山口大学附属図書館　広報委員会
〒753-8511　山口市大字吉田１６７７－１　TEL:083-933-5183　FAX:083-933-5186
E-mail:toshokan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp